序

本稿は、2015 年から始めたお茶の水女子大学ジェンダー研究所の研究プロジェクト「東アジアにおけるジェンダーと政治」(Gender and Politics in East Asia)の成果をまとめたブックレットシリーズの創刊号である。

「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究プロジェクトは、選挙によって政治代表が選ばれ政権交代が行われる政党政治を基本とする東アジアの民主主義諸国、とりわけ日本、韓国、台湾を対象に、代表制と政治のあり方の関係についてジェンダー視点に立脚した比較研究を行うことを目的としている。ジェンダー研究所の研究者と学外、海外におけるジェンダーと政治分野の専門家で構成される共同研究チームによって行われる。

東アジア地域はその経済発展の成果により国際的に注目されてきたが、政治の民主化の道筋は一様ではない。例えば、日本は民主主義の歴史が最も長いが、自民党一党優位政治が続き、政治代表における多様性が著しく欠けている。特に、議会では男性が圧倒的な多数を占め、2019 年 3 月現時点において衆議院の男性比率は 9 割弱である。戦後ほとんどの期間において女性議員はわずか 1 割未満であり続けたが、政治は男性の領域であるとの意識は根強く、女性議員を増やすための積極的な改善策を講じてこなかった。

他方で、隣国の韓国と台湾は 1990 年代以降政治に大きな変化が生じた。両国は 1980 年代末に軍部による権威主義政権時代に幕を引き、一党政治から多党制政治に移行する民主化を成し遂げた。民主化によって新政党が結成されると政党間の競争が生み出され、政党は新しい理念や政策を競争的に取り入れることで、有権者へのアピール力を強めようとした。そのような政治環境は、女性団体にとって、政党に女性の政治参画を高める措置を要求する「機会の窓」を開いた。韓国や台湾で導入されたクオータ制度は世界の潮流を国内政治に繋げた女性達の働きかけによって生まれたものである。2012 年、2016 年には韓国、台湾でそれぞれ初の女性大統領、女性総統も誕生した。

しかし、クオータ制度の導入過程やその効果は一概ではない。台湾はクオータ制度の長い歴史が存在し、現行クオータ制度を導入する時点で女性議員の比率はすでに 2 割に近かった。クオータ制度の導入はその勢いをさらに増す結果となり、直近の選挙まで女性議員は増え続け、38%に至った。これは世界で 22 位、アジアでは 1 位に当たる（2019 年 1 月 1

日時点)。韓国はクオータ制度への激しい反対を乗り越えたが、制度の効果は限定的である。初めて導入して 15 年をすぎた時点でも女性議員は 2 割にも至っていない。また日本では、2018 年 5 月に「政治分野における男女共同参画を推進する法律」が成立し、遅ればせながら女性議員を増やすための法的措置を取り始めたのである。しかし、この法律は理念法であるため、政党がどれだけその理念を実現させるために努力するのかに法律の効果が委ねられた。

本研究プロジェクトでは、以上のように東アジアの民主主義国家におけるジェンダーと政治に関する相違点の現状とその原因を歴史的、制度的に解明するともに、東アジア地域において、政治代表性の男性優位性が続くメカニズムを明らかにし、政治制度におけるジェンダー公平性・多様性を実現させる政策も検討している。そのため、議員を対象としたアンケート調査、政党、議員、市民社会関係者へのインタビューや現地でのフィールドワークを実施するほか、定期的な国際シンポジウムや研究集会を開き、研究交流を促進する。

本ブックレットは 2015 年に行われた研究集会や国際シンポジウムで報告された台湾に関する三つの報告を一つにまとめたものである。各集会に関する具体的な情報は巻末付録に掲載したポスターを参照してほしいが、三つの報告はいずれも台湾のジェンダークオータ研究の第一人者である台湾国立大学の黄長玲教授が行った。黄長玲教授は、本研究プロジェクトの海外研究協力者でもある。

ブックレットシリーズの創刊号に台湾を取り上げる理由は、台湾がジェンダー平等に向けて多くの先進的な取り組みをしてきたからである。そのような取り組みは日本ではあまり知られてこなかったし、台湾が国連の加盟国ではないため各種国際統計からも抜けている。文化的な共通点も多く、家父長制のあり方も似ている台湾だからこそ、政治分野における進んだ取り組みとその成果について学ぶことは日本にも多くの示唆点を与えてくれるだろう。

本ブックレットの元になった研究集会や国際シンポジウムはジェンダー研究所以外にも「政治代表におけるジェンダーと多様性研究会」(GDRep) が共催した。研究会メンバーの三浦まり(上智大学教授)と Jackie Steele(東京大学准教授)に感謝の意を表したい。Steele 氏には、本稿の英語原稿の編集も担当していただいた。また、科学研究費基盤研究 C (課題番号:15K03287)「女性の政治参画:制度的・社会的要因のサーベイ分析」(代表者:三浦

まり)、科学研究費基盤研究 C（課題番号：26360042)「女性大統領と女性の政治的代表性:韓国の朴槿恵を中心に」(代表者：申キヨン）からも一部サポートを得た。ジェンダー研究所の和田容子さんには表紙のデザインから日本語原稿の細かい編集まで担当していただいた。

本ブックレットシリーズの創刊号の刊行が大分遅れたものの、ようやく研究成果を社会に発信できるようになったことを嬉しく思う。今後も引き続き「東アジアにおけるジェンダーと政治」ブックレットシリーズとして研究成果を刊行していく所存である。

2019 年 3 月 16 日

申琪榮

本ブックレット掲載の 2015 年開催シンポジウム・セミナーにおける黄長玲氏による講演内容は、のちに以下の論文として発表された。

“Reserved for Whom? The Electoral Impact of Gender Quotas in Taiwan,” *Pacific Affairs* 89(2): 325-343, 2016

“Gender Quotas in Taiwan: The Impact of Global Diffusion,” *Politics and Gender* 11(01): 207-217, 2015

Chang-Ling Huang. 2019. “Taiwan: Asia’s Exception” in Susan Franceschet, Mona Lena Krook, and Netina Tan (eds). *The Palsgrave Handbook of Women’s Political Rights*. pp. 641-656

Chang-Ling Huang. 2019. “Gender Quotas and Women’s Increasing Political Competitiveness” *Taiwan Journal of Democracy* 15 (1) forthcoming.